

2024.7.9

## SIDE CORE 展 | コンクリート・プラネット

会期：2024年8月12日[月・振休]→12月8日[日]

休館日：月曜日(8/12、9/16、9/23、10/14、11/4は開館)

開館時間：11時より19時まで

入館料：大人 1,500円 / 大人ペア 2,600円 /

学生(25歳以下)・高校生・70歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、  
および介助者(1名様まで)1,300円 / 小・中学生 500円

\* 会期中、ご本人は何度でも展覧会へ入場できるパスポート制チケット。再入場の際、ご本人であることを証明するものをご提示下さい。

主催：コンクリート・プラネット展実行委員会[株式会社 須田鉄工所 / 合同会社 COOP TORIS / ワタリウム美術館]

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京[芸術文化魅力創出助成]

会場：ワタリウム美術館 + 屋外

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6 Tel:03-3402-3001

Fax:03-3405-7714 Email:official@watarium.co.jp

URL:<http://www.watarium.co.jp>



rode work tokyo\_spiral junction year: 2022  
photo: Natsuko Fukushima, Tokyo Art Beat



patch work my city year: 2021 photo: Yutaro Tagawa

SIDE COREは、公共空間や路上を舞台としたアートプロジェクトを展開するアートチームです。近年その活動がますます大きな注目を集めるなか、本展は、東京では初の大掛かりな個展となります。

例えば、高速道路や線路、地下水路などを特殊な方法で撮影したり、公共空間で見られる街灯やガードレール、道路工事のサインなどを素材としたインスタレーション作品、ネズミの人形がただただ夜の東京を歩くドキュメント映像など、SIDE COREは、都市の独自の公共性や制度に着目し、これに介入/交渉することで作品作りを行なっています。その表現方法は常に広がり、更新され、今まさに現在進行形の見逃せないアーティストです。

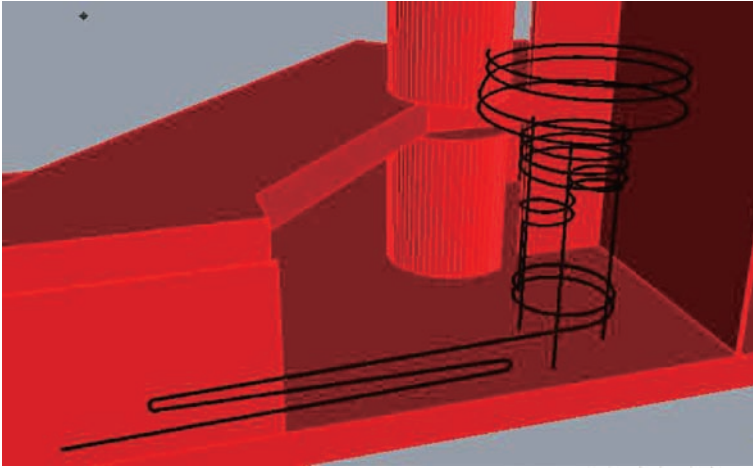
図版は参考作品です。実際の展示とは異なる場合がございます。

誰かが「**都会のあるビルの地下では、深夜になると暗渠となった川のせせらぎが聞こえる**」  
と言った。実際にそこに訪れてみると、昼間は街の喧騒に遮られて聞こえないが、夜街が静まると確かにチョロチョロと水が流れるような音がする。実際のところ、これは下水管を流れる排水の音なのかもしれない。ただ真っ黒な地下にジッと佇んでいると、自分の頭の中に自分が入っているような、または寝ているけれど意識だけが起きているような感覚に陥る。すると「**これは川の音である**」という誰かのストーリーに引き込まれ、**見えない地下水脈のとめどない広がり**がぼんやりと頭の中に浮かんでくる。

このように地下やトンネル、工事現場や真夜中の道など都市の暗部で時間を過ごすと、自身の内面/身体的な感覚から都市の形を感じ取り、地図に規定された都市の姿が歪んで感じられる。すると**普段見ている風景の中に抜け穴のような空間/状況が可視化されてきて、日常の行動規範から外れた行動/アクションの衝動が駆り立てられる**。ただそれは**私たちの自身の想像力だけの賜物ではなく、かつて誰かが見た都市のビジョン**を引き継ぎながら、これを継承していく行為であると思う。それはバタフライエフェクトのような反応で、世界のどこかで生まれた小さな遊びが、多様な立場の人々の行動を経由し、結果世界各国の都市システムに組み込まれる現象である。**ストリートカルチャーはまさにそうした都市の暗部から生まれる想像力と行動が世界的な共通感覚となる現象**で、単一の運動としての固有性を維持しながらも、文学や映画、建築や都市計画、アクティビズムやアートまで予測できない形で多様な現象に浸透してきた。**ワタリウム美術館はアートの歴史のなかに、そうしたストリートカルチャーの水脈が混在する場所である**。

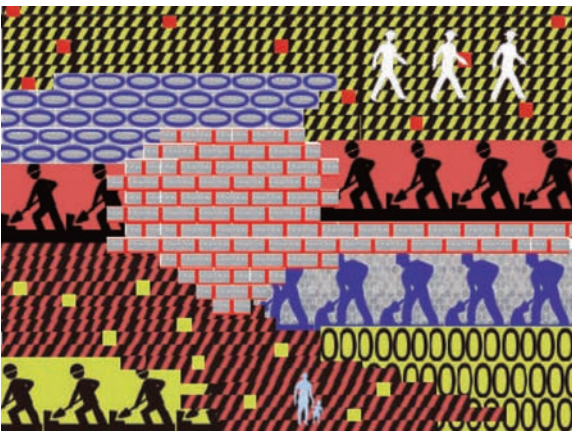
今回の展覧会では、私たちの**視点・行動・ストーリーテリング**をキーワードに3つのテーマに分類した作品群を展示する。視点のセクションでは、主に路上のマテリアルを用いて、都市のサイクルをモデル化する立体作品の新作シリーズを。行動のセクションでは、都市の状況やサイクルの中に介入した行動/表現の映像・写真のドキュメントを。そしてストーリーテリングのセクションでは、2023年から継続したプロジェクト「under city」、東京の地下空間をスケートボードによって開拓していくプロジェクトの最新版の展示を行います。都市の暗部を開拓し、小さなアクションを積み重ね、都市の風景にノイズをフィードバックしていく。そうした一連の行為は、**東京の都市システムに対して個人という小さな単位のビジョンを介入させていくこと**にあたるが、**同時に国境や時代を超えたカルチャー・アクティビズムの連鎖反応に触れ、予想できない誰かと繋がりを作り出す方法である**と考えている。

## 主な展示予定作品



鉄パイプの内部を鉄球が転がる音響インスタレーション作品。地下鉄や暗渠など、建築や都市の内部に隠された循環系をテーマとしている。

1.

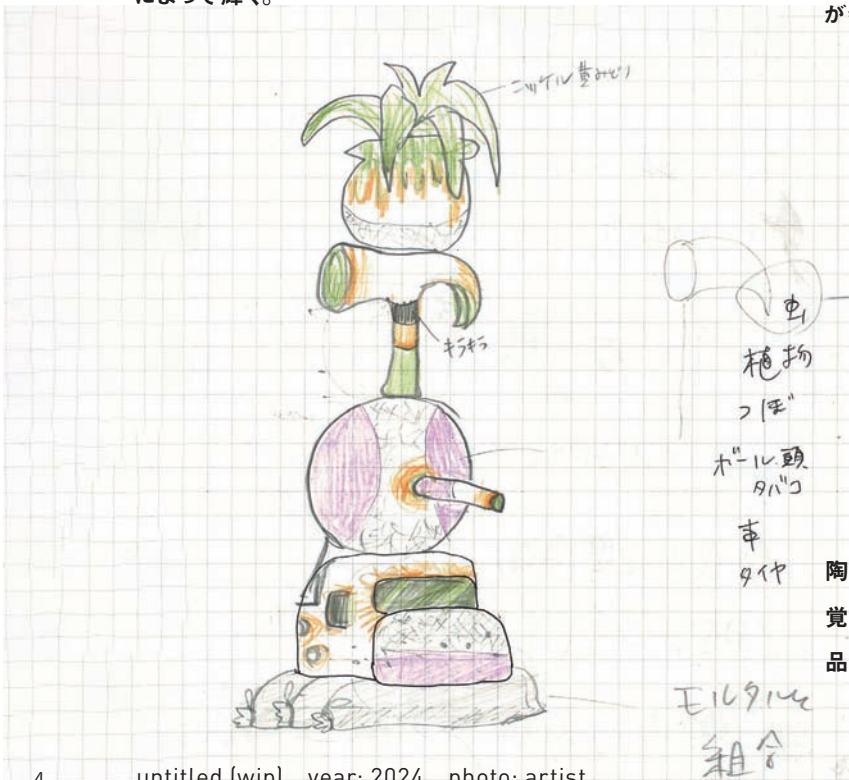


2. 反射板で制作された工事用道路サインを解体/再構築したコラージュ作品。展示壁が回転し、外の光や空間照明の反射によって輝く。



3. 車のライトを用いた照明作品。車が走るように、または人の眼差しのように、光が点滅し、音響が奏でられる。

3.



4. 陶器のトーテムポール。都市風景を身体的な感覚で捉え、柔らかなフォルムで表現する立体作品シリーズ。

4. untitled (wip) year: 2024 photo: artist

1.~4. 本展のためのプラン図より



dream house year: 2024 photo: Osamu Nakamura

アクアラインを背景に、木更津に浮かぶ小島に住宅を立てるプロジェクト。都市の交通インフラと人の暮らしなど、人と都市の関係の歴史を表している。



rode work ver. under city year: 2023 photo: Tada[yukai]

都市の様々な地下空間でスケーター達を撮影した、under cityの最新エディットのインスタレーション作品。音響や照明を空間に共鳴させ、地下における知覚体験を展示空間にインストールする。

また、本展は美術館内部だけではなく周辺環境にも展開し、都市への想像力がアートを通し広がっていく様をご覧ください。

## 関連イベント

### ツアー「night walk」

日時:9月13日(金)・10月11日(金)・11月2日(土)各回 19:00 - 20:30

SIDE COREのメンバーが街歩きしながら街の歴史やストリートアートを解説するツアー。

- 事前予約制 ● 定員 10名 ● 参加費 1000円 (会員割引有)
- ご参加希望の方は、ワタリウム美術館1F 受付 または、E-mail にてご予約ください。
- ご予約送信先 E-mail : watarium3@gmail.com
- 件名(night walk 申込)とし、① 希望の日付 ② 氏名 ③ TEL ④ E-mailアドレス ⑤ 会員番号(会員の方のみ)をご記入の上、送信ください。○ 開催日2日前までに(受領確認)のご返信をいたします。○ 当日、ワタリウム美術館1F受付にて、参加費をお支払いください。

## 問い合わせ先

ワタリウム美術館 Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714 official@watarium.co.jp

公式ホームページ : <http://www.watarium.co.jp/>

※ 内容が更新・変更した場合、公式ホームページ/SNSにて随時公開していきます。



photo: Shin Hamada

## SIDE CORE

2012年より活動を開始。メンバーは高須咲恵、松下徹、西広太志。映像ディレクターとして播本和宜が参加。公共空間におけるルールを紐解き、思考の転換、隙間への介入、表現やアクションの拡張を目的に、ストリートカルチャーを切り口として「都市空間における表現の拡張」をテーマに屋内・野外を問わず活動。

### 個展

- 「under pressure note」(2022年、NADiff A/P/A/R/T、東京)
- 「patchwork my city」(2022年、PARCEL、東京)
- 「down to town」(2022年、SKY GALLERY(SHIBUYA SKY 46F)、東京)
- 「under pressure」(2021年、青森公立大学 国際芸術センター青森(ACAC)、青森)
- 「意味の無い徹夜、通り過ぎる夜」(2019、AOYAMA STUDIO、東京)
- 「渋谷の部屋」(2018年、SNOW Contemporary、東京)

### グループショー

- 「Everything is a Museum」(2024年、石川、金沢市)
- 「百年後芸術祭」(2024年、千葉、木更津市/山武市)
- 「第8回横浜トリエンナーレ「野草:いま、ここで生きてる」」(2024年、横浜市)
- 「山梨国際芸術祭 八ヶ岳アート・エコロジー2023」(2023年、山梨)
- 「BAYSIDE STAND」(2023年、BLOCK HOUSE、東京)
- 「奥能登国際芸術祭2023」(2023年/石川、珠洲市)
- 「rode work ver. under city」(CCBTアート・インキュベーション・プログラム)(2023年、目黒観測井横 空地)
- 「やんばるアートフェスティバル」(2023年、2021年、沖縄)
- 「六本木クロッシング2022展:往来オーライ!」(2022年、森美術館、東京)
- 「Reborn-Art Festival」(2022年、2019年、2017年、宮城、石巻市)
- 「路線図2」(2022年、Gallery Trax、山梨)
- 「HOKUTO ART PROGRAM」(2021年、中村キースヘリング美術館、山梨)
- 「ポストコロナアーツ基金:新しい成長の提起」(2021年、東京藝術大学)
- 「水の波紋展2021」(2021年、ワタリウム美術館、東京)
- 「土祭2021」(2021年、栃木、益子町)
- 「ALTERNATIVE KYOTO」(2021年、京都、京丹後市)
- 「Out of Blueprints by Serpentine Galleries」(2020年、NOWNESS、ロンドン)
- 「そとのあそび展 ~ピクニックからスケートボードまで」(2018年、市原湖畔美術館、千葉)

### その他

- 「美術手帖 特集Groundbreaker」監修 2023年6月
- 「EASTEAST\_TOKYO 2023」立案/アドバイザー 2023年3月